

雪の日の展示館

十五年ぶりに大雪が東京にふり、夢の島も真白な綿ぼうしをかぶったような一めんの銀世界になりました。この大雪で夢の島には定期バスも不通となり、徒歩で帰る状況に追いこまれるなか、熱心に見学に来られた学校がありました。また見学者ゼロという日もなく、感心するばかりです。

あまりにも美しい雪景色だったので思わずシャッターをきりました。雪の日の夢の島へぜひいらして下さい。

都心に原水爆の本物の資料があることを知って驚きました。

来館者の声から

原爆に何の関係もない人がこんなおそろしい目に合わされるなんて、とても考えられない。広島・長崎の原子爆弾は一〇キロメートルでもはなれていればそんなに被害はなかったのに、この水爆は一

六〇キロメートルもはなれていたのに、久保山さんは死んでしまった。何十年前にこの水爆実験が行なわれたのだから、今はどのくらいおそろしいものがあるのだろう。

今日、マイフレンドと一緒に、ここに来たのは、社会と音楽の時に先生が展示館のことや、水爆などの話をして興味をもったからです。なんで、日本は第二次世界大戦の終わりまで敵に抵抗していたので

F 高校一年 N・O

* 主人が広島出身のこともあり、

広島市の平和公園内の資料館や、長崎へ旅行へ行った際にも長崎の資料館を尋ねたこともあり、原爆のことは多少なりともふれる機会がありました。夢の島のブルーの方には何度となく遊びに来ていたのですが、第五福竜丸のことを知り、今日尋ねてまいり、改めて原水爆の恐ろしさにふれました。ノーマン・モア・ヒロシマ、本当にこれしかありません。

* 都心に原水爆の本物の資料があることを知って驚きました。

▼一月二六日、千葉の浦安高校から先生二名と女生徒二名が、日本史クラブの補修として展示館へ訪れました。この学校は五・六年前から日本史の授業のなかで、ビデオなどを利用して同和問題や、朝鮮問題、原水爆に関する問題まで学習しているそうです。授業が終わった後も、みんな話し合うこともあり、自然に関心を持っていくと女生徒は語っていました。

編集後記

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話(521)8494

● 100万人参観者運動を!

'83年12月来館者数	6,685名
'84年1月来館者数	3,684名
通算1カ月平均来館者数	4,821名
当月1日平均来館者数	154名
通算来館者数	443,560名

ビキニ水爆の被害と「広島・長崎」

伊東 壮

戦後、日本で最大の規模と最長の歴史をもつ一大民衆運動、原水爆禁止運動は、三〇年前のビキニ水爆実験による第五福竜丸の被災から始まった。そしてこの原水爆禁止運動は、それまでアメリカ占領軍や日本政府が政治的に無視・陰蔽してきた広島・長崎の原爆被害の実相を世界と国民の目の前にさらし、長く苦しんできた被爆者にたいして、政府が戦後十二年目にようやく「原爆被爆者の医療に関する法律」を制定して、その援護に手をつけるきっかけを作った。

しかし、被爆者、一般国民を問わず、広島・長崎をビキニと比べる場合、共通したものもあるが何か異質なものもあるという感じがいつもつきまとっている。広島・長崎とビキニはどのようにつながっているのだろうか。

「いのち」を蝕ばれてきた点では共通である。だが、広島・長崎の被害の本質は全人間、全生物、全環境を一瞬にして絶滅させ、生き残った者にも「いのち」のみならず「くらし」「こころ」に持続拡大する傷を残している。やはり核兵器使用による被害は、実験による被害をワンステップとびこえたところにあるのは事実である。

広島・長崎が「核戦争」そのものの啓示であるとすれば、第五福竜丸は「核戦争準備」における全人類の生命と尊厳が侵犯されていることへの啓示である。(いとう・たけし 日本被団協代表委員・第五福竜丸平和協会評議員)





焼津港の八号売場

焼津に降り立った。駅の付近は商
静岡駅から普通電車で十数分、
昨年十二月下旬、焼津の街を
訪ねた。年間八〇〇万トン、
一、〇〇〇億円の東洋一の水揚
げを誇る現在の焼津港を知るた
めと、ビキニ水爆30年を迎えた
この機会に、第五福竜丸の元乗
組員の手記を「福竜丸だより」
に連載したい願望から漁労長の
見崎吉男さんにお会いするため
だった。

焼津の街を訪ねて

店街があり、アーケードの下には
モダンな店も並び思ってたような
漁港の街のイメージもなかったが
アーケードを通り抜けると、古い
街並みに出会った。木造二階建て
の家々の中には、船の帆や漁網を
あつかっている店や、昔風の魚屋
がひっそりとたたずんでいた。

魚市場を取材

早朝六時半、せりが行なわれる
と聞いた、七号売場、八号売場へ
足を運んだ。そこは、三〇年前
「死の灰」で汚染されたマグロが
水揚げされたところだった。
まだせりは始まっていなかった
が、長さ二メートル前後のマグロ
やカツオが種類別に区分けされ、
横たわっていた。その中には
まるで石のかたまりのように
見える冷凍マグロがあった。
この冷凍マグロは、南マグロ
で、アフリカ南部のケープ沖
や、オーストラリア海域でと
れ、冷下50℃/60℃で冷凍保
存されるという。この遠洋漁
業は一年は続けられる。
中南方漁業といわれるミク

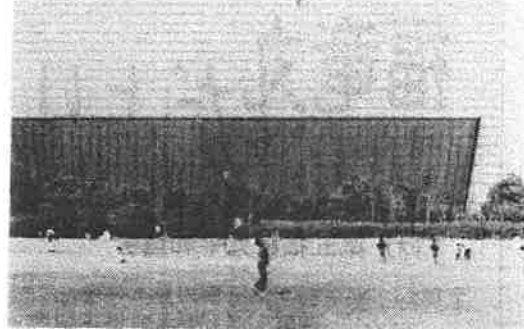
残念ながら、操業中の漁夫の苦
労話は聞けなかったが、現在東シ
ナ海で、百トンも満たない漁船で
操業している二人の漁夫と昨年十
一月偶然、列車の中でいあわせ、
魚のことを尋ねたことがあった。
早朝五時半頃起床し朝食をすま
すとすぐ漁がはじまり、午後はゆ
っくり昼食もとるひまもなく寝床
につくのが十一時頃で、沖へいっ
ている間は休む間もないこと。冬
は玄海灘から寒気が押し寄せ、凍
りつく思いをしながら操業をし、
夏は夏で、暑苦しくともカッパを
脱ぐこともできず、汗と潮にまみ
れ体中がベトベトになることなど
を話してくれた。二人の漁夫は五
〇歳と六〇歳くらいにみえた。

(も)

反核兵器・第五福竜丸大空へ舞う

ビキニ水爆被災30周年・新春風上げ大会

成人式の一月十五日、恒例の「
新春風上げ大会」が夢の島でひら
かれました。一九七三年から行な
われたこの催しものも、今年で十
二回を迎え、今年にはビキニ水爆
被災30周年とあってか、絶好の風上
げ日より。参加者は思い思いの手
づくりの凧を大空に舞い上がらせ
ました。なかでも、「反核」と大
きな文字で書かれた福竜丸の絵は
一目をひきました。凧どしにちな



んだミッキーマウス凧や、北砂小
学校の「第五福竜丸」の32枚の連
凧。この連凧は強い風にあおられ
糸がきれ大空へ船旅をするハブニ
ングもありましたが、一昨年につ
づきクラスのチームワークで一等
賞と特別賞を勝ちとり、表彰式が
行なわれた展示館内に、子どもた
ちの歓声が響きわたりました。
たこあげ大会の賞品は、今年も
童心社や岩崎書店など十社の協力
を得、絵本が四百冊ちかく寄贈さ
れました。百名の参加者は、参加
賞を手にし、みんなの力で福竜丸
を大切に守り、来年もぜひ参加し
たいと意欲を燃やしていました。

第五福竜丸平和協会 第58回理事会決定事項 △概要▽

- ▼84・1・23/学士会館(本郷)
▼出席理事 三宅泰雄・楢山義夫
斎藤鶴子・猿橋勝子・本多喜美。
(1) 第57回理事会議事録承認
(2) 活動報告 略
(3) ビキニ水爆被災30周年記念行

被災30周年の3・1 近づく=協会も映画会

ビキニ水爆被災
30周年の3・1が
近づいた。静岡・
焼津では、統一し
て「中央集会」が
開催され、墓参の
集いも行なわれる。
日本山妙法寺を中
心に焼津にむけ二月十一日、第
五福竜丸展示館前平和行進
が発発する。平和協会でも三月
一日当日、展示館への見学を促
進し、見学者と共にまた福竜丸
と共に30周年の歴史の重みをか
みしめ核兵器廃絶への誓いを新
らたにするが、夕方江東区文化
センターで記念映画会を大々的

にひらく(広告めん参照)さそ
いあって多くのみなさんの参加
を心からお願ひします。各新
聞社の取材もあいつぎ、毎日新
聞静岡版では乗組員を訪問して
の連載がおこなわれ三・一にむ
け展示館からの「実況中継」も
予定されている。展示館見学も
多く一月の大雪の日にもバス四
台で二百名近くの小学生が訪れ
るなどさかん。近日中に、大阪
の出版社から徳田純宏氏の「熊
野からの手紙―第五福竜丸を作
った人々」、長谷川潮氏の「第
五福竜丸物語」が発行される。
私たちの写真集も一日も早く発
行したい。

事について以下四つを30周年記
念行事の重点としそれぞれの完遂
に全力あげる。(1)第五福竜丸の永
久保存への船体修理(2)第五福竜丸
展示館付属資料室の建設(3)賛助会
員の倍加(4)ビキニ水爆被災30周年
記念集会等の開催。(5)については
三月一日、東京で記念映画会を開
催し、七月中に原水爆禁止科学者
フォーラムと共催し学術的な記念
シンポジウムを行なう。

(4) 広報資料の作成 写真集「母
と子で見る第五福竜丸」(絵はがき
第五福竜丸)の発行をすすめる。
久保山氏遺言の色紙を作成する。
(5) 福竜丸だよりの編集 早急に
編集委を開く。乗組員の手記談話
の取材をすすめる。
会議終了後全員で東大総合科学
資料館の視察を行なった。次回理
事会は三月二十六日(月)

「今はもう若い人は船に乗らな
くなったし乗ってもすぐやめてしま
う」と淡々と語っていた。

取材を終えて

見崎吉男さんは、お惣菜と食料
品をあつかう店を営んでいた。白
い割烹着が印象的な見崎さんは、
「今こそ核兵器を廃絶するために
多くの人が一つになって立ちあが
らなければいけない」と強く主張
しながらも、現在の平和運動をど
う人々に訴えていくか、どう創り
だしていくか問題を提起してきた。
ビキニ水爆被災がきっかけとなっ
て焼津の街も平和運動が盛り上が
った頃を想いだし、何故にその
燃え上がった一つの炎が消えてい
ったのか今でも無念に思っている。
また、「ビキニ」、「ひばくしゃ」
という言葉を知るとずしりと重
みを感じると言う。元乗組員の手
記のことを相談すると、心良く応
じてくれた。

ビキニ水爆被災30周年 3・1ビキニ事件記念映画会

主催 第五福竜丸平和協会

とき '84年3月1日(木) 午後6時~9:00
ところ 江東区文化センター大ホール
江東区東陽4-11-3 電話644-8111。
営団地下鉄・東西線「東陽町」駅下車、江東区役所方向へ
約400メートル、区役所横。(徒歩約5分)

第一部 ●主催者あいさつ

第五福竜丸平和協会会長 三宅泰雄

●記念報告——ビキニ事件と私

日本原子力環境工学研究協会専務理事 亀田和久 先生
亀田先生は、気象研究所在職中、真珠湾襲撃(しんこくはる)のビキニ
海軍放射能調査に従事された。その後、日本原子力研究所の創設にた
り、同所勤務。以後は、上記協会の発起者の一人として環境放射能防護のため尽力。

第二部

劇映画

黒澤明監督 1955年・東宝作品

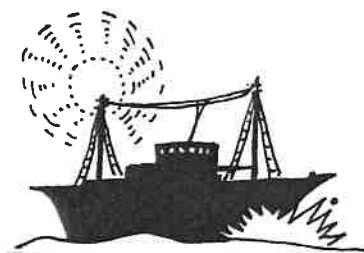
生きものの記録 35分 113分

原水爆から人類は逃れることはできないのだろうか。黒澤明監督が「七人の侍」以来一 decade の沈黙を破って製作したこの作品は、現代のすべての人の心裏にひそむ原水爆への恐怖を描いたシリアス・ドラマである。(「キネマ旬報」1955年10月号の紹介より)

参加費 500円

第五福竜丸展示館を見学しましょう

地下鉄東西線・東陽町駅から都バス「新木場」行(木11)で15分
四つ目「夢の島」下車。バス停からすぐです(月曜休館、9時半~14時)



連絡先

東京都江東区夢の島3-2 第五福竜丸展示館内
電話 03-521-8494

第五福竜丸平和協会



三船敏郎

黒澤明監督 35分/113分

生きものの記録

製作考(キネマ旬報より)

この映画は、水爆の脅威を描いている。しかし、それをセンセーショナルに描こうとは思っていない。ある一人の老人を通して、この問題をすべての人が自分自身の問題として考えてくれるように描きたいのである。この問題はおそらく誰の頭の中にも、おぼろげながら大きな不安な影を投じている。しかし、大方の人はそれから目をそむけている。これは、我々にしてもそうなのであるが、問題があまりにも大きく怖ろしいからだ。そこに人間の弱さと愚かしさがあるのではない。例えば、この水爆の脅威を他の動物達が知ったなら、おそらく本能的に行動を起こすだろう。少しでも安全な場所を捜し、そこへ向って種族保存の本能から大移動を起こすだろう。この映画の主人公は、そういう生きものの賢さと強さを持っている。この主人公は人間としては欠点だらけかもしれない。しかし、その一見奇矯な行動の中に、生きものの正直な叫びを聞いてほしいと思う。

で、中島家の財産をめぐる暗闘が始まった。その夜半、意識を回復した喜一は工場さえなければ皆あきらめて一緒にブラジルへ行ってくれと考え、自ら工場に火を放った。工場は灰燼に帰し、焼跡に立った彼の髪は一夜にして真白に変わっていた。そしてその日から職を失った工員達の激しい抗議やその家族達の悲しみをこめた非難の視線に愕然とするのだった。喜一はうろたえて「一緒に行ってくれ」と叫んだが「何処に行こうが水爆に対して絶対安全な場所なんか地球上にありやしませんよ」という山崎の言葉に、喜一は今やただ虚脱したように呆然と空を見つめるのみだった。数日後、精神病院に収容された喜一を原田が見舞いに行くと、憔悴しきっていると思っただ彼は、澄みきった明るい顔で、沈もうとする真赤な夕陽に向い「燃えとる燃えとる!とうとう地球が燃えちゃった!」と叫びつつづけているのだった。

キャスト＝ 三船敏郎・三好栄子・石規子・千秋実・青山京子・根岸明美・志村喬・小川虎之助 他

都内に鑄造工場を経営し、かなりの財産をもつ中島喜一は、大した学歴もなく自分の腕一本で叩き上げた働き者で、満ち溢れるほどの逞しい生活力だけで六十歳の現在まで生きて来た行動的な男である。喜一は妻とよとの間に二男二女があるほか、二人の妾とその子供、それにもう一人妾腹の子の月々の面倒までみている。その喜一が原水爆とその放射能に対して被害妄想におちいり、地球上で安全な土地はもはや南米しかないとして、近親者全員のブラジル移住を決意、全財産を投げうってそれを断行しようとしていた。息子達は喜一をそのまま放置しておいたら、本人だけでなく近親全部の生活も破壊されるおそれがあるとして、家庭裁判所に喜一を準禁治産者とする申立てを申請した。むし暑い夏の日、狭苦しい家庭裁判所の一室

には喜一家と栗林達までつめかけていた。家庭裁判所参事員の歯科医原田は、その表情は異様ながら被害妄想を思わせる弱々しさは少しもない喜一の言動に強く心をひかれた。ブラジル行きの計画をドンドン実行に移していく喜一に、あわてた息子達の申請によって予定より早く開かれた二回目の裁判で、申立人側の要求通り、裁判所は喜一を準禁治産者と認めた。それまで、ブラジルで成功し日本に帰りたいがっている老人と、ブラジルの住宅農場と交換する話を進めていた喜一は、この裁定によって自己の財産が自由に出来なくなったこと、そのため妻の里子や良一達が急に冷たい態度をとるようになったことから、そのブラジル行きの計画は挫折してしまっただけで、喜一にとって、彼の生命である行動力を封じられ、ただ原水爆の恐怖に腕をこまねいて対面しなければならぬことは、地獄の責苦以上の苦しみだった。遂に喜一は、近親者を全部呼び集め、皆の前に手をついて懇願した。そして喜一は極度の神経衰弱と疲労から倒れてしまった。喜一の身を気遣うとよやすえの母子と妾の朝子をよそに、栗林達の間では喜一の万一の場合を考え